

しば子先生の 芝生教室



先生：葉色度計の使い方はよくわかったかしら？
生徒：はい・・・これがあれば芝生の健全度合いは一目瞭然ですね・・・

先生：そうね・・・最新の機器や資材を有効に活用することが低コストで高品質の芝生を維持するための条件であることは間違いないわ・・・

生徒：そのとおりですね・・・管理機械、計測器、肥料、農薬・・・様々なものが進歩してますね・・・

先生：芝生の管理をビジネスとして考えれば『費用対効果』を十分に考える必要があるわ・・・この葉色度計を使えば、例えば複数のゴルフ場を管理している場合、各コースにこの葉色度計を用意して毎日計測し数値が落ちて 6.0 を切りそうになったら施肥をする様に決めておけば常に安定した芝質を維持することが可能だし、施肥に関して判断する難しい決定をする熟練管理者がいなくても良くなるのでそのコストも下げられるわね・・・

生徒：なるほど・・・やはり数字で現状を把握するという事は正確性と確実性が上がってリスクも減るといふ事ですね・・・

先生：そのとおりね・・・あとは土壤の物理性・化学性を正しい状態にしていくことと、より安定して効果が出る最新の肥料を適正適量で施肥計画を立てることが最も重要ね・・・

生徒：なるほど・・・その施肥計画ですがいろいろ肥料の勉強をしてきましたが実際どのように立てればいいのでしょうか？

先生：そうね・・・じゃあ施肥計画の立て方を考えていきましょうか？

生徒：はいお願いします・・・

先生：まず施肥計画を立てる前の大前提として『土壌分析』を行う事が最も大事ね・・・

生徒：『土壌分析』！そうでした・・・土壌分析の見方も学んできましたけれど、その結果を踏まえてどういう施肥計画・管理計画を立てなければいけないのか・・・そこを理解しないとイケませんね・・・

先生：そのとおりよ・・・芝生が吸収する養分は人間が施肥した

肥料養分だけではなくすでに土壌中に存在する肥料養分も吸収することになるし、化学性や物理性がおかしければ養分吸収に影響を与えるし、きちんとした土壌分析結果をふまえて施肥計画を立てなければ誤った結果を招くわね・・・

生徒：なるほど・・・じゃあとにかく土壌分析をすればいいのですね・・・

先生：あら・・・土壌分析はただやればいいものではないわよ・・・大事なのはどうやってやるか・・・

生徒：適当に土を取って分析をどこかにお願いすればいいのでは？

先生：それではダメよ・・・まず『サンプリング』からちゃんと考えないと・・・

生徒：サンプリング？・・・サンプルの土を取ることですよね・・・

先生：そうよ・・・例えばフェアウェーの土を取るときに適当に一カ所から土を掘って一つの土壌サンプルを作るようなやり方では正しくないわ・・・

生徒：えっ・・・いつもそうやってます・・・

先生：まあそうでしょうね・・・でも考えて・・・そのサンプルの分析結果から施肥計画を立てるのよ・・・1万㎡近いフェアウェーの中のたった10cm四方の土壌サンプルの分析結果で1万㎡を代表させてしまっているの？

生徒：なるほど・・・たまたま肥料が寄ったところとか、窪地でサッチとかが溜まっているところとか・・・客土が均一でないところとか・・・

先生：そう・・・どこの土をどのように集めたか・・・その結果をどう使うのか・・・それを考えてサンプリングしないとダメね・・・一般的には一つのエリアから写真のようなサンプラーで最低 10～20 個のサンプルを取って・・・芝生と根を取り除き、プラスチックのバケツで混ぜ合わせて一つのサンプルを作るのが基本・・・サンプリングは高いところ低いところなどは避けて平均的な部分を選んで地下 10cm ぐらいまでとること・・・こうすればエリア内のバラツキを抑えることが出来て分析結果をそのエリアの平均的な数値として考えることが可能になるわ・・・



しば子先生への質問や励ましのメールはこちらへ・・・
shibako@hugh-enterprise.co.jp